

「救急の日」及び「救急医療週間」啓発用ポスター仕様書

一般財団法人救急振興財団

1 テーマ

救急業務及び救急医療に対する、国民の正しい理解と認識を深め、かつ、救急医療関係者の意識の高揚を図ること。

2 ポスターの内容

- (1) 応急手当の重要性を国民に強く普及啓発し、一般市民の救命講習への参加意欲をかきたてられるものとする。
- (2) 「救命の連鎖」と「市民の役割」について、重要性が伝わるものとする。(別添え参照)

3 制作上の留意点

- (1) 見る者にとって好感が持て、信頼感及び清潔感があり、かつ印象的であること。
- (2) 救急自動車・ヘリコプターを図案として使用する場合には、現行の高規格救急自動車及び消防・防災ヘリコプターを使用すること。
- (3) 使用するイラスト、写真等については必ずオリジナルのものを使用し、過去に使用の例のないもので、かつ採用後においても当ポスター以外では使用しないこと。
- (4) 人権問題に配慮すること。

4 規格

- (1) A 2 判・コート紙又はマット紙・4 色カラー印刷
- (2) 再生紙使用としその旨を表記すること。
- (3) インクは、エコマーク商品認定基準適合インクを使用しその旨を表記すること。

5 企画案

- (1) ラフスケッチとし、原色 A 3 判の 1 サイズとし、3 点以内の提出とすること。
- (2) ラフスケッチにコンセプト（文書で A 4 片面 1 枚）と見積書を添付すること。
- (3) 社名を企画案の裏面とコンセプトに記入すること。

6 著作権等

原画の著作権は、救急振興財団にあるものとし、著作権等の問題が生じた場合は、受託者の責任において解決するものとする。

7 企画案提出期限

平成 27 年 5 月 29 日（金）郵送可

8 その他

- (1) 掲載すべき字句等
 - ア 「9 月 9 日」、「救急の日」
 - イ 「救急車の適正な利用をお願いします」

ウ 「主催：消防庁・厚生労働省・都道府県・市町村・日本医師会・日本救急医学会・全国消防長会」

エ 「制作：一般財団法人救急振興財団」

オ 消防庁「救急車利用マニュアルQRコード」

※記載すべき字句については、変更、追加等あり。

(2) 掲示場所

各消防本部等

(3) 印刷枚数

財団発注分：約72,000枚予定

(配布先等からの希望により増刷を行う場合あり)

(4) 納期

平成27年7月末日

(5) 納入先

消防本部、東京消防庁、その他消防関係団体、約830箇所

(別紙3「配布計画」参照)

(6) 予定金額

4,140,000円以内(消費税含む)

(7) その他

ア 採用が決定し、ポスターが完成した時には、データを提出すること。

イ 納入の際は、ポスターに折り目がつかないなど細心の注意を払うこと。

ウ 各消防本部等からの電子データの使用依頼について当財団から問い合わせがあった場合には速やかに対応すること。

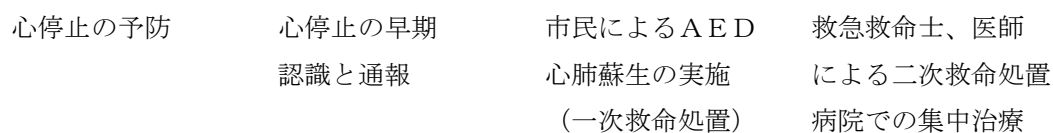
「救命の連鎖」

救命の連鎖は、「心停止の予防」「心停止の早期認識と通報」「一次救命処置」「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」の4つの輪で成り立っており、これら4つの輪が途切れることなくすばやくつながることで救命効果が高まるとされている。

下図はこの一連の行動を示した例である。



図：「救命の連鎖」の一例



〈解説〉

・ 1 つめの輪～「心停止の予防」

小児における心停止の主な原因が怪我（外傷）、溺水、窒息などであり、いずれも未然に防ぐことが可能であること。また成人の突然死の原因に、生活習慣病ともいわれる急性心筋梗塞、脳卒中などがあり、これら生活習慣病のリスクを低下させることも大切であるが、それら疾病の初期症状に気づき早期に救急車を要請し、心停止に至る前に医療機関での治療を開始することがより重要である。

・ 2 つめの輪～「心停止の早期認識と通報」

突然倒れた人や、反応のない人をみたら心停止を疑うことから始まる。心停止の可能性を認識したら、ただちに周囲に知らせ応援を呼び、119番通報を行い、AEDや救急車が早く到着するよう努める。

・ 3 つめの輪～「一次救命処置」

心肺蘇生とAEDの実施。効果的な心肺蘇生の実施はAEDによる心拍再開の効果をより高めるためにも重要である。

・ 4 つめの輪～「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」

救急救命士や医師は一次救命処置を継続し、薬剤や気道確保器具を使用し二次救命処置を行い、傷病者の心拍再開を目指し、再開後は専門家による集中治療により社会復帰を目指す。

市民一人ひとりが、「救命の連鎖」を支える重要な役割を担っている。

※ イラストについては独自のものでも可